

1989. 2. 10

九州大学 大型計算機センターニュース

No. 387

福岡市東区箱崎 6 丁目 10 番 1 号
九州大学大型計算機センター
広報教育室(TEL092-641-1101)
内線 2505

目 次

1. マスストレージ (MSD) の継続手続きについて	1
2. 滞在者控室のカード保管棚の廃止について	1
3. 講習会資料について	1
4. センター刊行物について	2
5. 平成元年度 (前期) ライブラリプログラム開発計画募集について (再掲)	2

1. マスストレージ (MSD) の継続手続きについて

平成元年度も引続きマスストレージ (MSD) を利用される方は、3月18日 (土) までに共同利用掛へご連絡ください。なお、平成元年度への計算機利用継続手続きがされていない場合は認められませんのでご注意ください。また、取消しを希望される方は、マスストレージ取消申請書を必ず提出してください。

おって、現在のところマスストレージの新規受付は中止しています。

(共同利用掛 電 (内) 2505)

2. 滞在者控室のカード保管棚の廃止について

2階滞在者控室の中に備付けているカード保管棚を廃止します。カード保管棚に品物を入れたままにされている方は、3月10日 (金) までに保管棚の品物を引き取りに来て下さい。

なお、3月10日 (金) まで連絡のない場合は、廃棄処分致しますので御了承ください。

(共同利用掛 電 (内) 2505)

3. 講習会資料について

本年度に行った下記講習会の資料が、若干余っていますので、希望される方は共同利用掛 (内線 2505) にお申し出ください。先着順といたします。

- ・文献情報検索講習会
- ・TSS初級講習会
- ・VP講習会
- ・パソコン端末講習会
- ・トーマス・マン・ファイル検索講習会
- ・AD変換講習会

4. センター刊行物について

下記の刊行物に多少在庫がありますので、希望者は共同利用掛（内線 2515）にお申し出下さい。

なお、希望者多数の場合は先着順といたします。

- ・ 計算機科学研究報告 第1号～第5号
- ・ 研究開発論文集 No. 7
- ・ オンライン・データベース利用ガイド 第8版
- ・ 利用の手引 基本編
 ネットワーク編
- ・ 広報 Vol. 16 No. 1, 3, 4, 5
 Vol. 17 No. 3, 6
 Vol. 18 No. 1, 2, 3, 4, 5
 Vol. 19 No. 1, 2, 3
 Vol. 20 No. 1, 2, 4, 5
 Vol. 21 No. 2, 3, 4, 5, 6
- ・ 広報別刷
 - ・ TeX（技術文書整形出力システム）の紹介
 - ・ 画像情報システム FIVIS の紹介（1）
 FIVIS のハードウェア／ソフトウェア
 - ・ 画像情報システム FIVIS の紹介（2） IPEX
 - ・ FIVIS による画像処理 1. 走査型電子顕微鏡写真処理
 - ・ グラフィックツールを使った図形出力の方法
 - ・ 統計解析システム SAS 概説（3）
 - ・ SAS / GRAPH の使用について
 - ・ 自動翻訳システム ATLAS の使用について
 - ・ APL の使用法
 - ・ センターのプロッタシステム

5. 平成元年度（前期）ライブラリプログラム開発計画募集について（再掲）

ライブラリプログラム開発計画募集要領（後述）に基づき、標記開発計画を下記のとおり募集します。多数の応募を歓迎します。

記

1. 応募資格 本センター利用有資格者
2. 応募締切 平成元年2月25日（土）
3. 応募手続 所定の申請書に必要事項を記入の上、ライブラリ室（内線 2508）まで提出する。
 （申請書および募集要領は、ライブラリ室に用意してあります。）

4. 対象課題
- a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
 - b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

なお、開発されたプログラムは、なるべく早い時期にセンターのライブラリプログラムとして登録および公開するものとしますが、これら開発に関する事項の詳細については、次項に示す募集要領を参照してください。

ライブラリプログラム開発計画募集要領

1. 対象となる課題

- a) 広く各分野で使われる可能性のあるプログラムの開発。
- b) ある専門分野に限られるが、その分野では広く使われる可能性のあるプログラムの開発。

ただし、次のような課題については原則として認めない。

- i) 一般的な手法が確立されていなくて、研究的性格の強い課題。
 - ii) 既に登録されているプログラムの保守、デバッグのための課題。
 - iii) 他センター等のプログラムの書替え・移植において、その作業が極めて容易であると考えられる課題。
2. 公募は年2回（前期、後期）とする。申請された課題は、締切の翌月のプログラムライブラリ委員会（以下、委員会）で審査する。ただし、開発に際し、多数の長大ジョブの実行が必要であると考えられる場合は、原則として前期に申請し、繁忙期に入る前（11月位）までに開発を終了するものとする。

前期締切：2月末日（開発開始は 4月1日予定）

後期締切：8月末日（開発開始は10月1日予定）

採用された課題は、センターニュースで広報する。

3. 開発者の義務

- i) 開発終了後、早い時期にライブラリプログラムとして登録および公開するものとする。
- ii) 利用者のための「利用の手引き」を作成する。これを終了報告書として委員会で審議する。
- iii) 開発したプログラムの概要あるいはその使用法をセンター広報に掲載する。

4. 開発に係る経費等

- i) 採用された課題に対して、ライブラリ開発用の登録番号を割当て、それに係る計算機利用負担金は、センターで負担するものとする。計算機利用負担金の限度額は、申請時の計算時間により別に定める。
- ii) 計算機利用負担金以外で開発に必要な旅費、雑費等は、この開発計画による負担の対象とはしないので留意すること。

5. 開発作業

- i) ライブラリ開発は年度毎（4月～翌年3月）とする。開発継続の場合には、十分な資料とともに継続申請書を提出する。

- ii) 開発継続の場合にも、完成した範囲内で登録手続きをとることが望ましい。
- iii) 同一課題での継続は、原則として3年までとする。

6. その他

- i) 申請書に不明な箇所があったり、申請計算時間が過大であると思われる場合や、開発経過が不首尾であると考えられる場合は、委員会にて口頭説明を求めることがある。
- ii) サブルーチンまたは関数副プログラムのライブラリの場合、既に登録してあるものと呼び出し名が同一にならないように注意すること。
- iii) オンラインマニュアル（計算機に格納され利用可能なマニュアル）を用意することが望ましい。

申請計算時間と予算額

計算時間（分）	60	120	180	240	300	360	420	480	540
予算額（万円）	10	15	20	25	30	35	40	45	50

（ライブラリ室 電（内）2508）